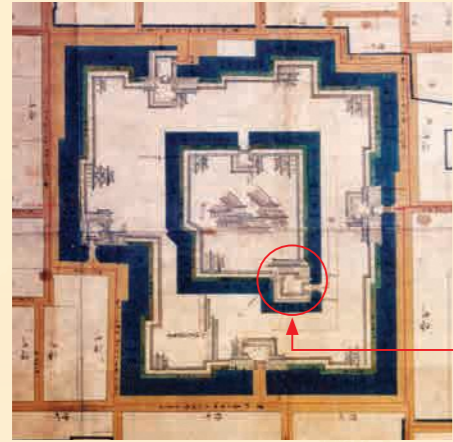
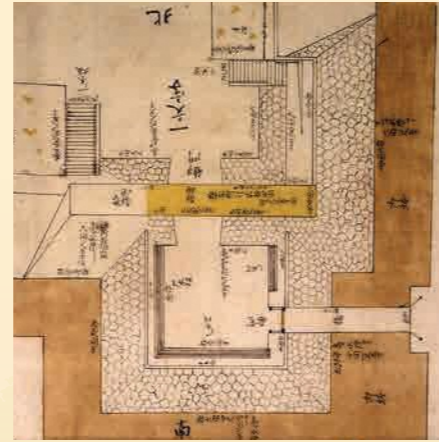


## 本丸一文字門とは

山形城の本丸には、2つの入口があり、そのうち大手にあたるのが「本丸一文字門」です。本丸一文字門は、枳形と呼ばれる広場を中心に、一文字櫓、櫓門、高麗門、枳形土塀及び石垣で構成された枳形門で、進路を屈曲させることで、敵の進入を食い止める役目がありました。復原工事にあたっては、秋元氏時代の粕川家絵図や発掘調査の結果等に基づき実施しております。櫓台石垣の上に存在していた一文字櫓については、復原に必要な写真や立面図等の史料が見つからず、現段階では、復原することができない状況です。



「正保城絵図」  
(結城松平氏時代 1644～1648頃)  
国立公文書館所蔵



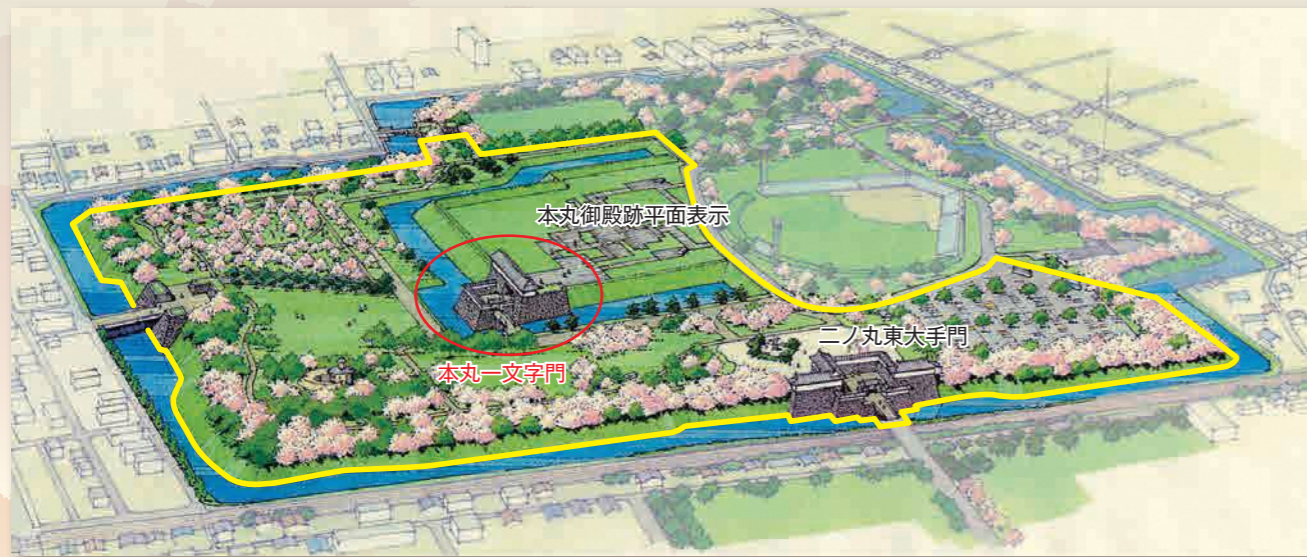
「山形城本丸一文字門平面図」  
(秋元氏時代 1767～1845)  
個人蔵

## 霞城公園整備事業の計画と経過

霞城公園整備事業は、市制施行90周年記念事業として計画され、昭和59年に策定された「霞城公園整備計画」に基づき整備を進めております。

現在は、下図の黄色ラインで囲まれた南側エリアの早期完成を目指し、本丸の区画を復原することを優先的に進めています。全体としては、順次、園内のスポーツ施設等の撤去を行いながら、令和15年度の完成を目指しています。

1986 (昭和61年)	国の史跡に指定(指定面積33.4ha)
1987 (昭和62年)～1991 (平成3年)	二ノ丸東大手門復原
1996 (平成8年)	本丸一文字門発掘調査着手
1998 (平成10年)～2003 (平成15年)	本丸一文字門石垣復原
※2002 (平成14年)～	本丸堀土塁復原に着手(現在継続中)
2004 (平成16年)～2005 (平成17年)	本丸一文字門大手橋復原
2012 (平成24年)～2014 (平成26年)	本丸一文字門高麗門及び枳形土塀復原



南側エリア完成イメージ図

# 史跡 山形城跡 本丸一文字門復原

石垣・大手橋・高麗門・枳形土塀の整備



本丸一文字門復原完成イメージ図

問い合わせ先  
 〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3-25 ☎(023)641-1212  
 公園整備・管理に関すること  
 山形市公園緑地課(内線529、530)  
 発掘調査・城郭の歴史に関すること  
 山形市文化創造都市課(内線626、627)

史料を探しています！  
 山形城跡は、国指定の史跡であり、復原工事は、史実に基づいたものでなければなりません。そのため、山形市では、山形城に関わる写真や立面図等の史料を探しております。お心当たりの方は、左記問い合わせ先にご連絡をお願いいたします。

山形市

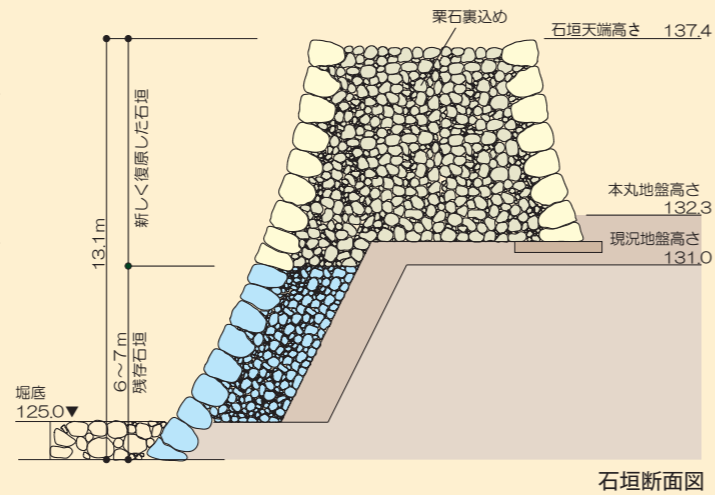
# 1 石垣の復原

【工事概要】

石垣の最下部から高さ6~7mまでは、発掘調査によって発見された残存石垣を積み直して復原したものです。発見された残存石垣は、基本的に横目地の通らない「乱積」ですが、下部には、過去に崩壊したなごりである「せり出し」がみられ、その上部には、横目地が通る「布積」による積み直しが見つかりました。石垣の背面は栗石裏込めであり、排水や荷重分散の工夫が見られます。また、東側の櫓台石垣北面には、古図に描かれていない石垣も発見されています。

新しく復原した石垣は、堀から掘り出された石や、新たに購入した石材を使用して復原しました。

石の加工	打ち込め
石の積み方	乱積及び布積、角部は算木積
石積み表面積	約2,500㎡
石の総重量	約5,000t(約5,800個の石を使用)
石の種類	安山岩(残存石垣は蔵王山系の石、購入石は月山産)



江戸時代の石垣崩壊痕跡 (石垣のせり出し)



裏込めの調査状況 (栗石 [河原石] が詰められた)



石垣復原工事状況 (北東から)



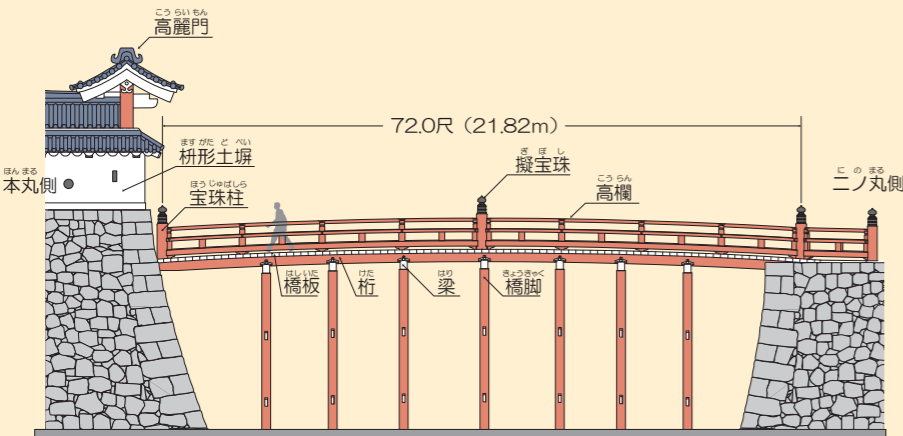
古図に描かれていない石垣の出土状況

# 2 大手橋の復原

【工事概要】

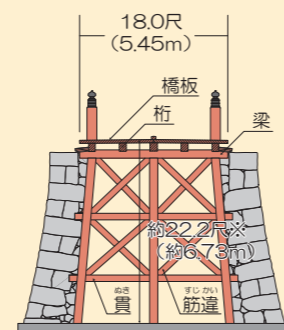
大手橋は木橋で、その材質については、発掘調査によって出土した遺物を樹種鑑定して決定しました。橋脚の位置も、発掘調査の結果に基づいて決定しているため、橋脚の間隔は、2.1~2.8mとバラつきがあります。

寸法	長さ21.82m、幅5.45m、高さ6.73m(橋中央部)
材質	橋脚、高欄 … 杉(高知県産)
	桁、梁 … 松(高知県産)
	橋板 … 栗(山形県小国産、岩手県産)



大手橋側面図

一文字門大手橋側面図及び断面図



大手橋断面図

※橋中央部での高さ



橋脚部発掘状況



取上げた当時の橋脚 (木柱の先端が削られている)



大手橋及び石垣完成状況 (平成17年度時点)

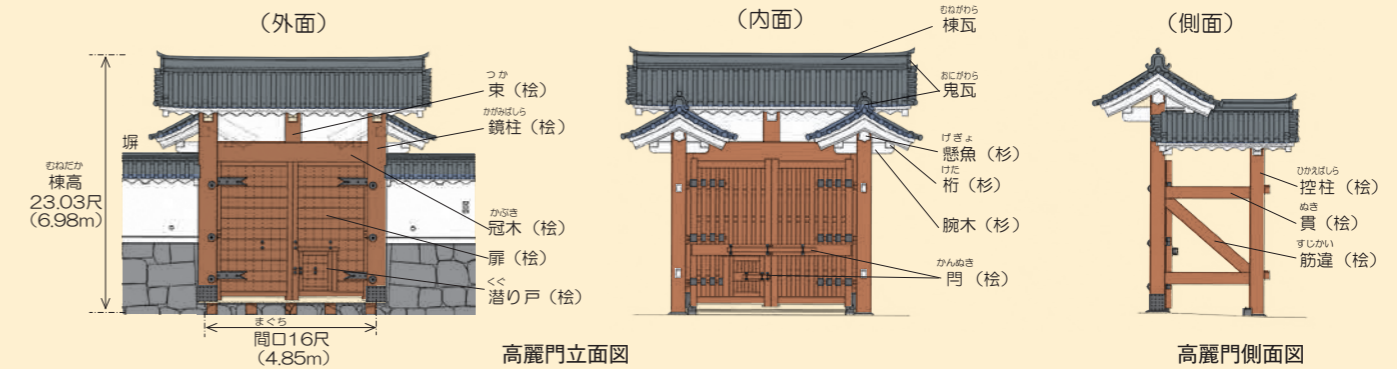
# 3 高麗門の復原

【工事概要】

高麗門は、江戸時代に流行した城門で、鏡柱と冠木を覆う小さな切妻造りの屋根と、鏡柱を支える控柱にもそれぞれ小さな屋根が架けられており、扉が閉じた状態でも開いた状態でも屋根の下に納まる構造となっています。

復原にあたっては、先に復原した二ノ丸東大手門の高麗門に準じた形状ですが、本丸一文字門の高麗門の方が、若干間口が狭い造りとなっています。また、耐久性と品質を重視して、鏡柱、控柱、冠木及び建具などに、厳選した国産の檜材を採用し、白太(白アリ食害や腐植の原因となる辺材)を含まない、丸太中心部の赤身と呼ばれる心材を使用しています。

寸法	間口4.85m、棟高6.98m
使用した木材	檜(奈良県吉野産、高知県産)、杉(奈良県吉野産、高知県産)
その他の資材	瓦(岐阜県製造)、金物(京都府製造)



高麗門立面図

高麗門側面図

# 4 桁形土塀の復原

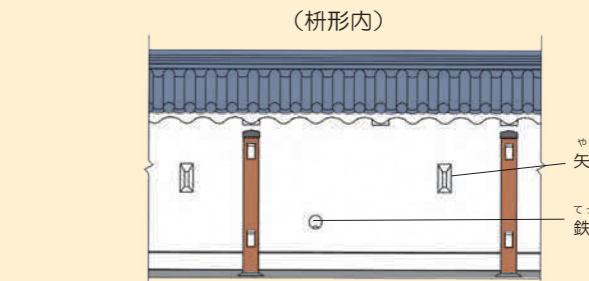
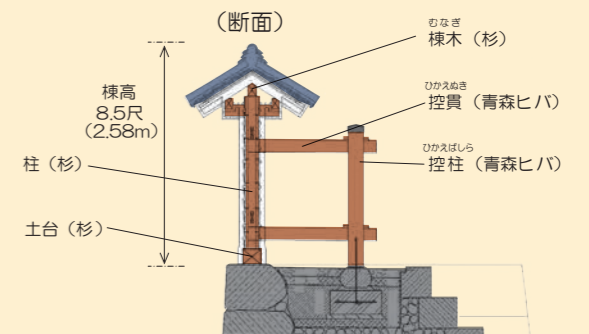
【工事概要】

復原した土塀は、木造の骨組みを持つ木芯土壁の漆喰仕上げで、軒などの木部箇所まで土壁で覆う軒塗籠と呼ばれる工法を用い、屋根を本瓦葺にて仕上げています。控柱は、屋根がかからず風雨にさらされるため、耐久性を考慮し青森ヒバを使用しました。それ以外の木材は、山形市産を含む山形県産の杉を使用しました。

構造は、二ノ丸東大手門の土塀に準じていますが、大きく異なる点は、敵兵に攻撃を加えるために必要な狭間が設けられているところです。なお、明治初期に撮影された二ノ丸東大手門の写真には、狭間が写っていなかったため、二ノ丸東大手門復原の際には、設けませんでした。

土壁は、仕上りの厚さが約30cmもあります。その施工は、下地となる竹木舞を組み上げた後、荒壁塗り、中塗りと進め、最後に漆喰仕上げを行います。

寸法	土塀総延長63.05m、棟高2.58m、壁厚約30cm
使用した木材	青森ヒバ(青森県産)、杉(山形市産及び山形県産)
その他資材	瓦(岐阜県製造)、土壁材(新潟県産)



土塀断面図と土塀立面図 (桁形内)



土壁の下地となる竹木舞



土壁の施工



高麗門と桁形土塀完成状況